

○本県の現状について

(岩手県保健福祉部：第1回岩手県地域医療対策協議会)

1 医師数の状況

(1) 医師数全体

- ・ 医師数は増加しているものの、全国との格差が拡大している (P 3)
- ・ 平成14年度現在、都道府県別順位では下位8位であるが、長野、静岡、岐阜などの中部・東海地域と同程度の水準。(P 4)
- ・ 面積あたりの医師密度は低く、東京の約100分の1=1医療機関の医療圏が広い→他地域からの医師の応援が得られにくく、医師の負担が大きい (P 5)

(2) 業務の種別による比較

- ・ 業務の種別比率は全国とほぼ等しい=勤務医、開業医ともに不足している (P 6)

(3) 年齢構成による比較

- ・ 他県と比較し、70歳以上の医師の割合が高く、39歳以下の割合が低い (P 7)

(4) 女性医師の状況

- ・ 女性医師の割合は増加しているが、全国平均と比較すると伸び率は低い (P 8)

2 病床数の状況

- ・ 人口あたりの病床数は、全国平均よりやや多い程度。(P 9)
- ・ 病床あたりの医師数では、全国との差が拡大。(P 10)
- ・ 病床規模別では、100床から400床の中規模病院が多い (P 11)
→診療科あたりの従事する医師が少ないため、医師の負担感が大きい

3 患者の動向

- ・ 受療率は入院でやや高く、外来はほぼ全国水準 (P 12)
- ・ 県全体の平均在院日数は全国平均と同程度だが医療圏毎にばらつきがある (P 13)
- ・ 月別患者数では、小規模病院における冬期間の入院患者数の増が大きい (P 14)

4 医師の地域偏在

- ・ 医師は盛岡に集中しており、特に県北・沿岸部で医師が少ない (P 15)
- ・ 診療科別分布では盛岡を除いた医療圏で特定の診療科(小児科等)のばらつきがみられる (P 16)
- ・ 両磐、久慈医療圏で小児科医師が、釜石で産婦人科医師が少ない (P 17~18)

5 大学医学部の状況

(1) 入学定員数

- ・ 人口あたりの入学定員は、全国平均をやや下回る程度だが、病床あたりや面積あたりの値は低い（P 19）

(2) 進学状況

- ・ 東北地域の人口10万対医学部入学定員数は、全国平均よりやや少ない程度だが、東北地域出身者割合は、全国平均を大きく下回る。（P 20）
- ・ 東京近郊の人口に対する国・公立大学医学部定員が著しく少ない（P 21）
→私立大学を避ける者が東北等他地域に多数流出（東北は東京近郊出身者の草刈場）
- ・ 18歳人口1万人あたりの進学者数は、全国最低水準の東北平均を下回り、中国・四国地域の半数以下（P 22）
→原因としては様々な理由が考えられるが、大きくは ①学力の差 ②経済的問題が挙げられる

(3) 卒業後の県内への定着

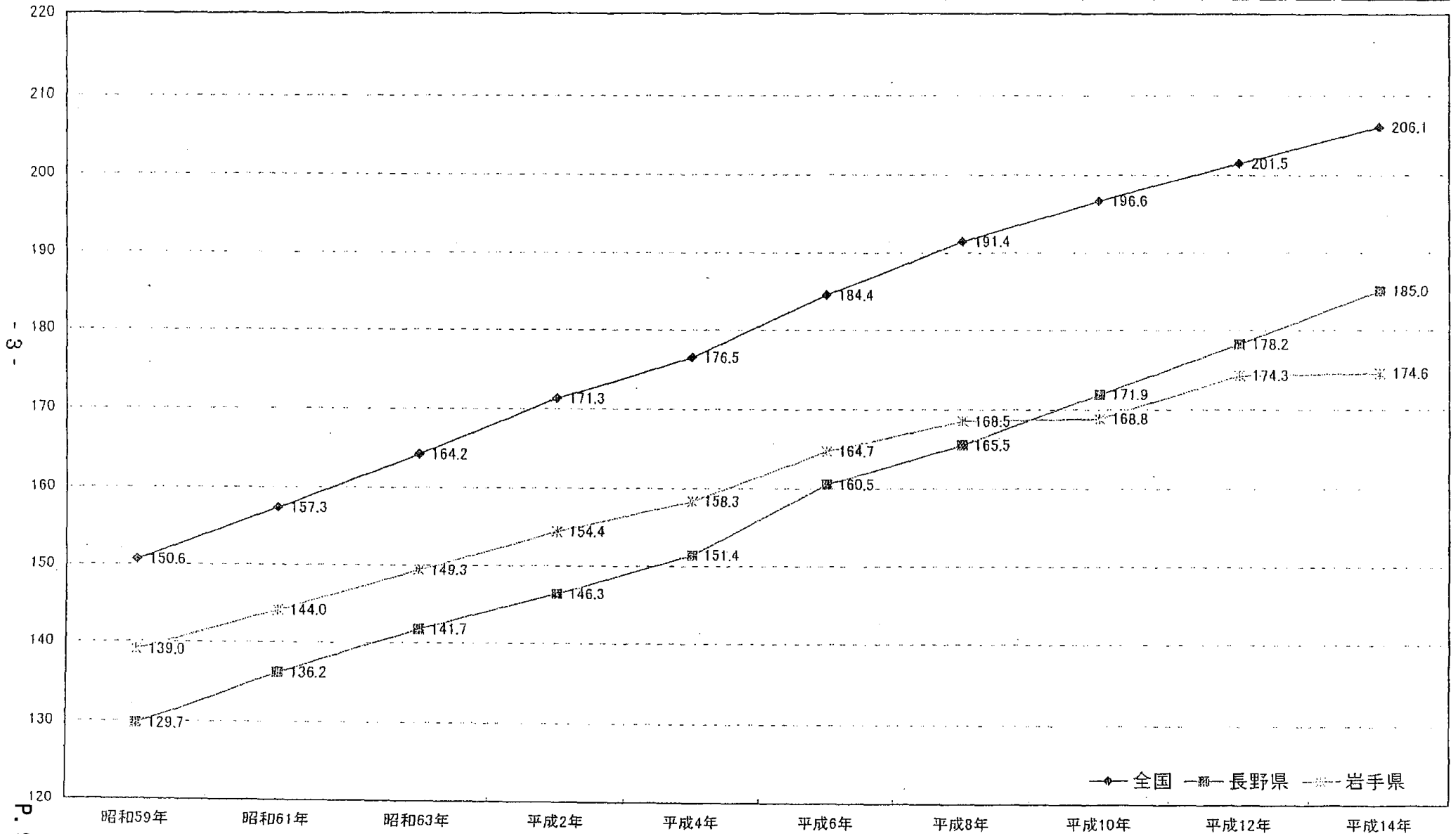
- ・ 県内への定着率は40%程度であり、東北各県も同様の傾向（P 23）
→医師の少ない東北から医師の多い東京近郊に多数流出していると考えられる
- ・ 岩手医科大学の本県出身者比率は25%前後であり東北各県もほぼ同様の傾向（P 23）
→卒業後の地元への定着率が低い要因の一つと考えられる

6 まとめ

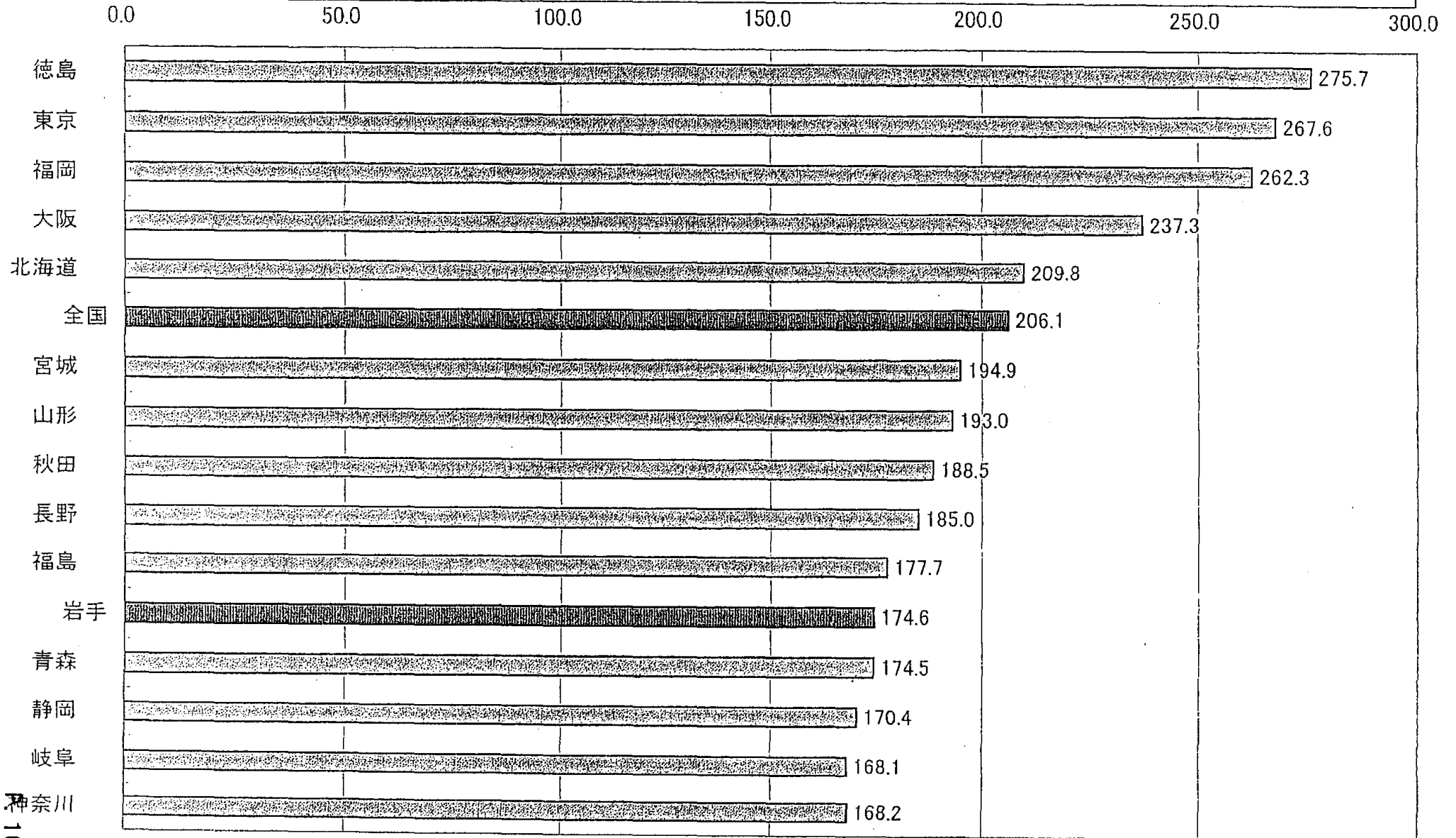
- ・ 本県の医師数は全国に比べ少ないレベルにあり、その差は年々拡大している。また、東北各県の状況も同様である。
- ・ 本県の病床数の多さ、入院受療率の高さ、面積の広さ、病院の1診療科あたりの医師数の少なさ等の要因が、医師不足の印象をさらに強くしている。
- ・ 本県の医師不足は、主に盛岡医療圏以外の医療圏の問題であり、診療科の偏りもある
- ・ 医師不足の背景には、本県からの医学部進学者数の少なさがあり、医師養成対策が必要
- ・ また、大学卒業後の定着率が低く、医師定着のための対策が必要

○ 人口10万対医師数の年次推移（医師、歯科医師、薬剤師調査）

→岩手県の医師数は増加しているが、近年増加が鈍化しており、全国との格差が拡大している

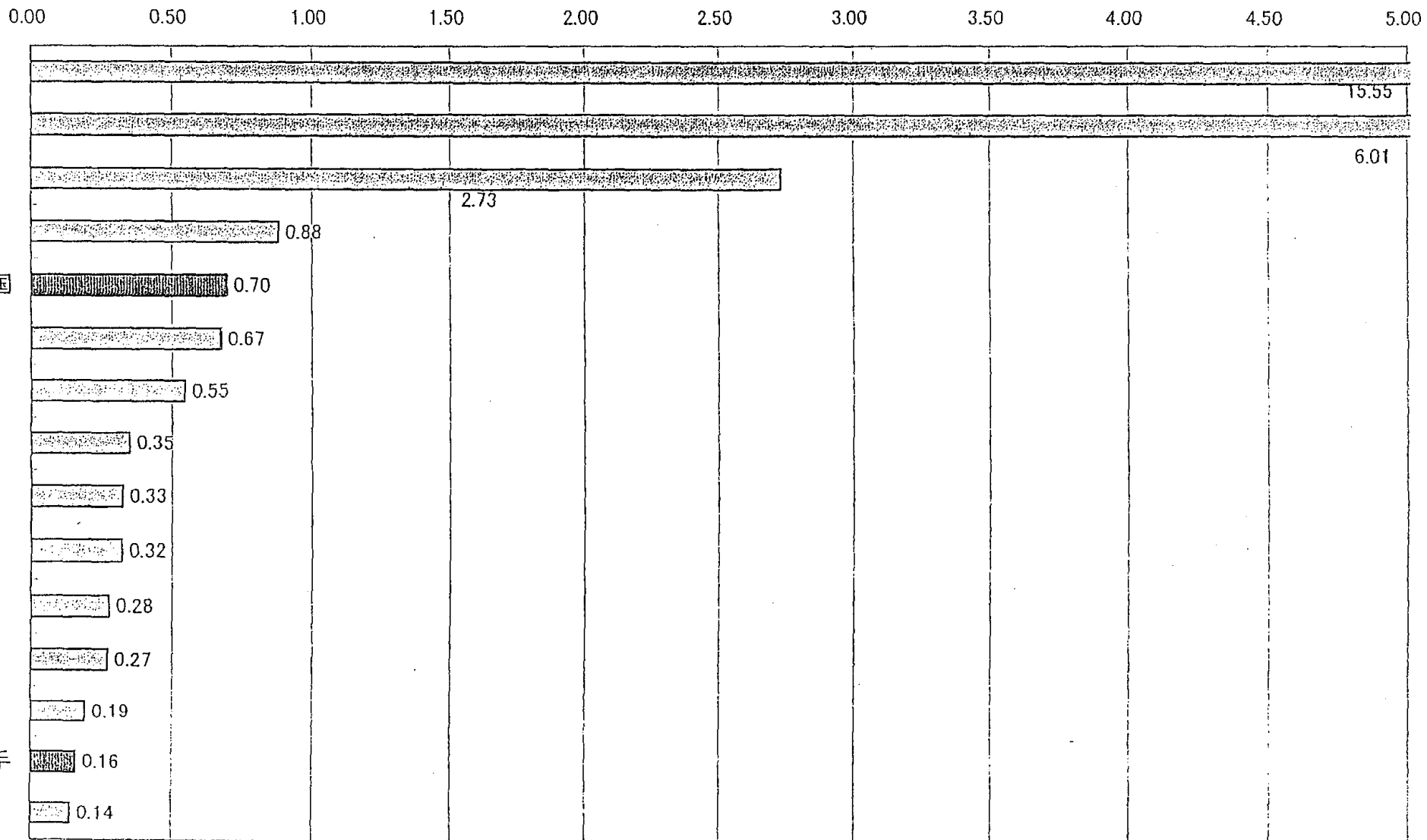


○ 人口10万対医師数 (H14 医師、歯科医師、薬剤師調査)
 →全国平均206.1人と比べて医師数は少なく、都道府県順位では下位8位。
 (ただし、長野(185.0)、静岡(170.8)、岐阜(168.1)などの中部・東海地域と同程度)

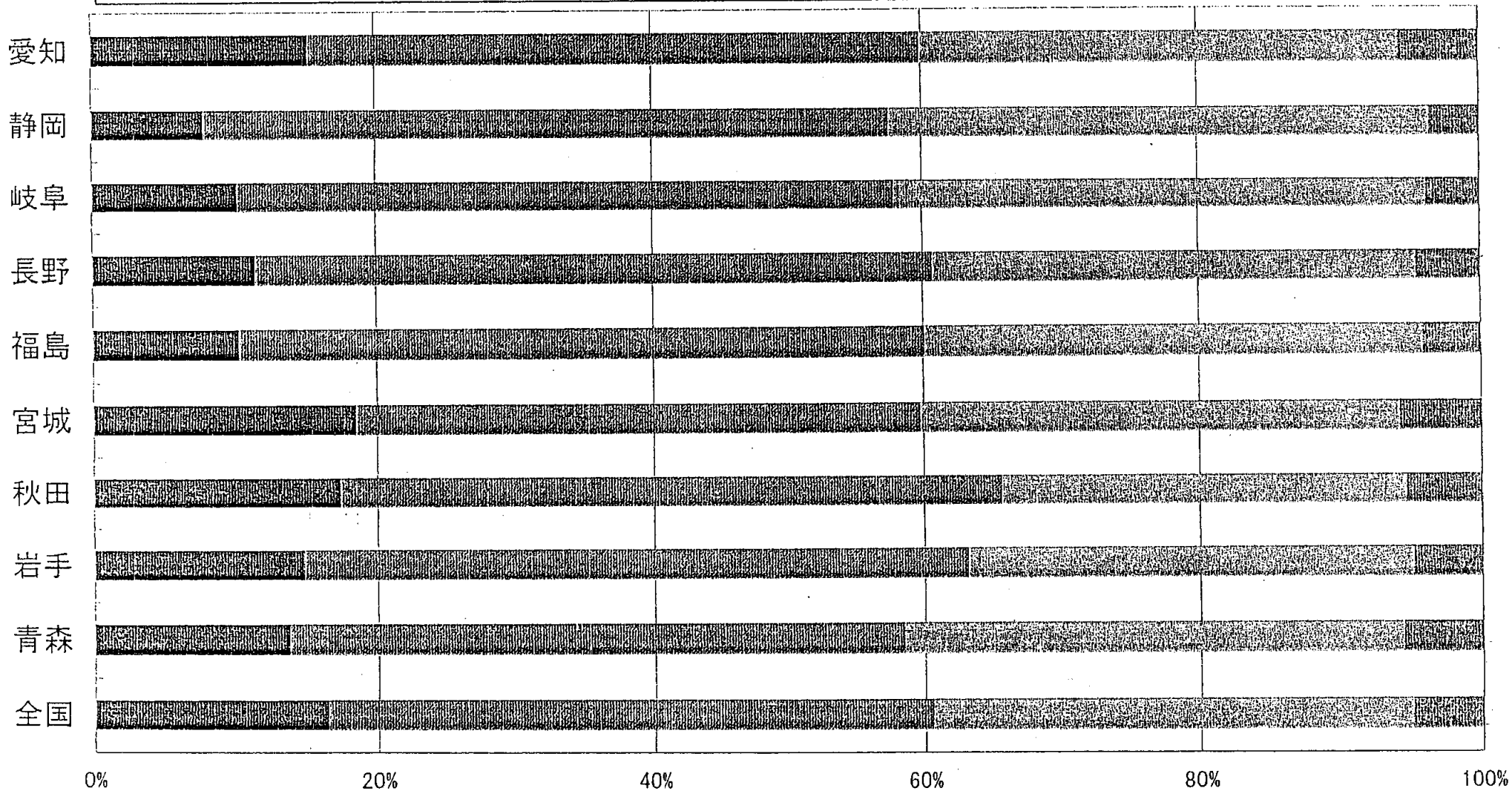


○ 医師密度（医師数：H14.12.31現在）

→面積あたりの医師密度は低く、東京の約100分の1 = 1医療機関の医療圏が広い
 →他地域からの医師の応援が得られにくく、医師の負担が大きい

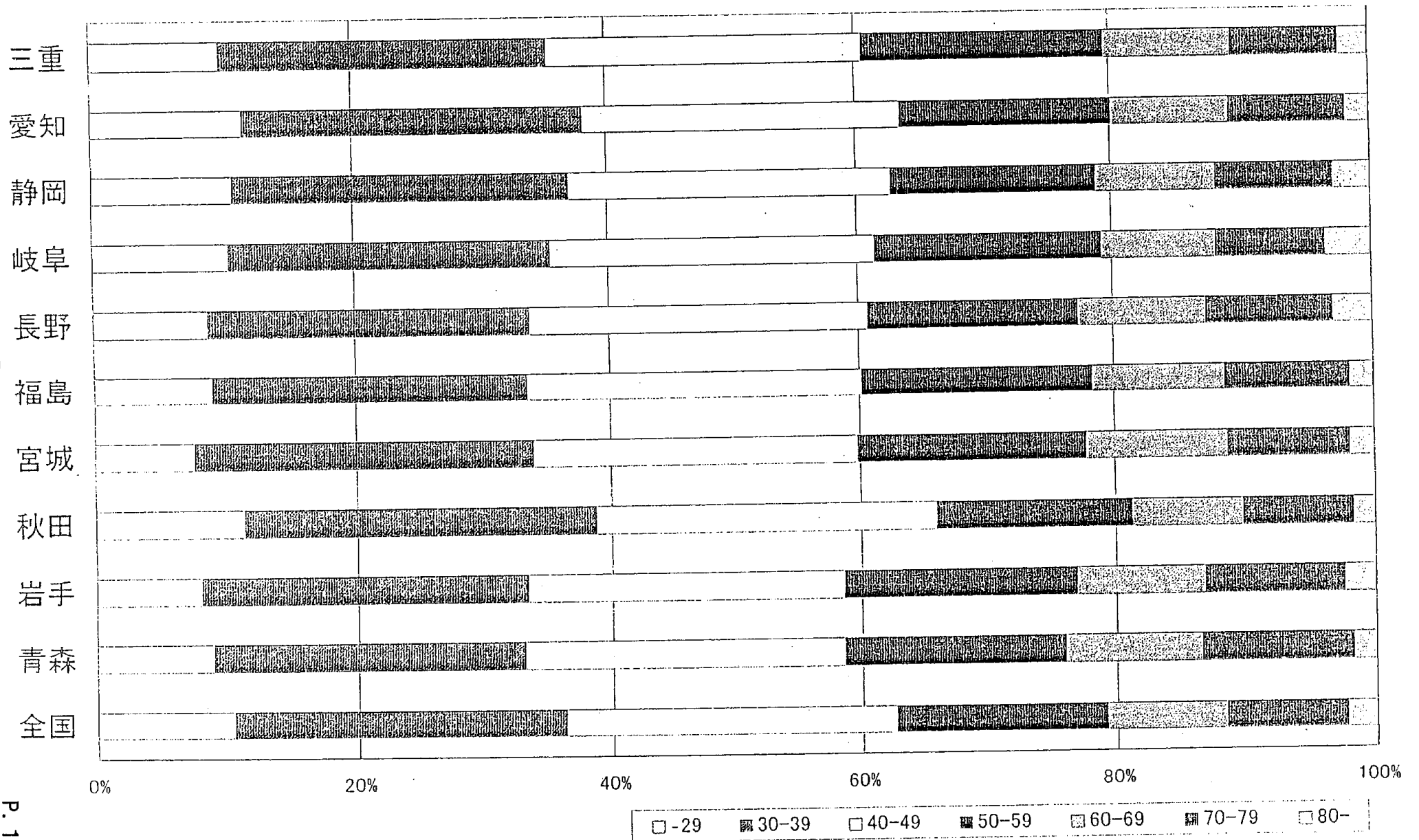


○ 各県医師の業務の種別分布 (平成14年12月31日現在)
 → 就業別分布は全国や他県とほぼ等しい=勤務医、開業医とも不足している

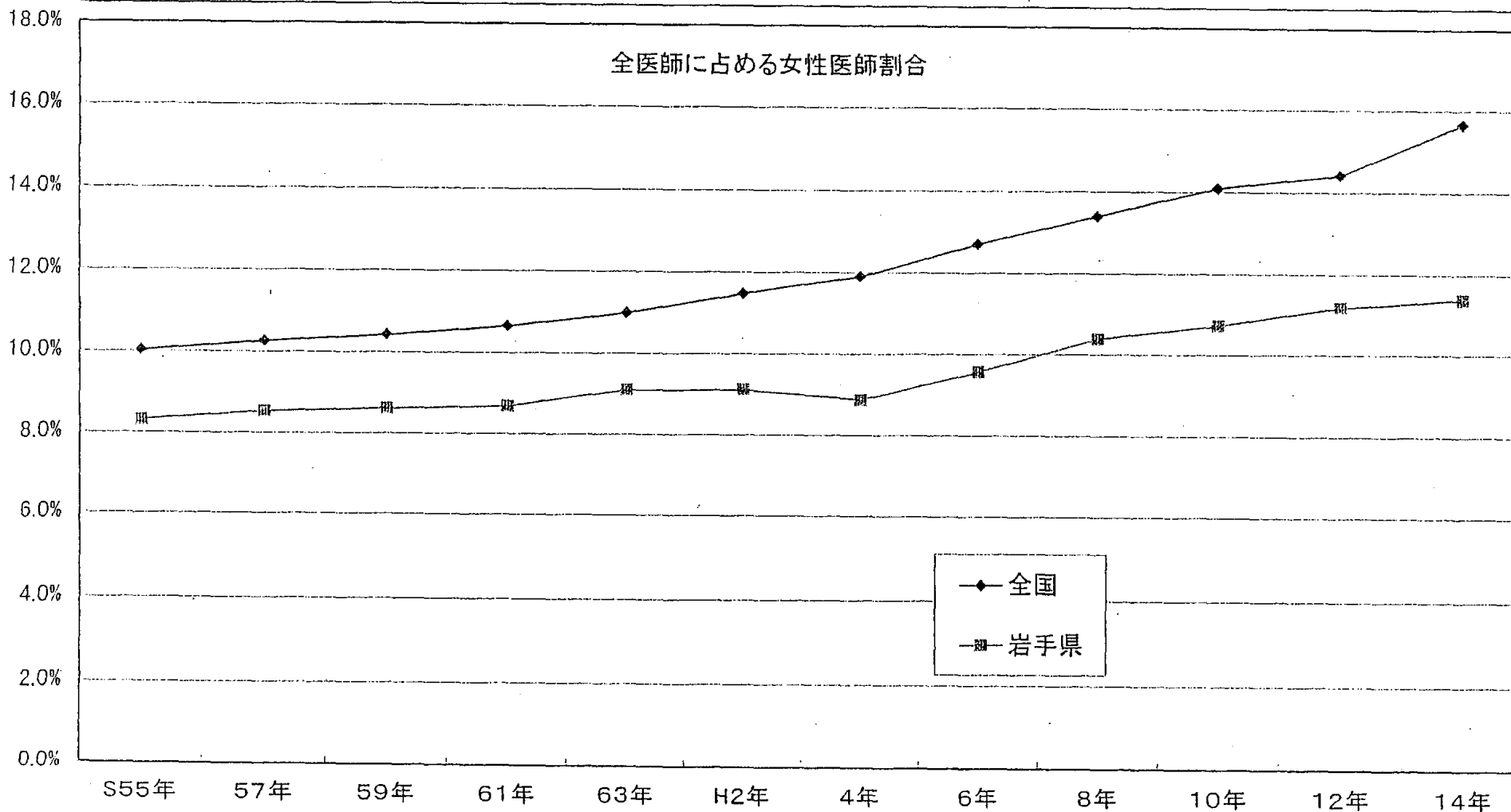


■ 医育機関 ■ 病院 ■ 診療所 ■ その他

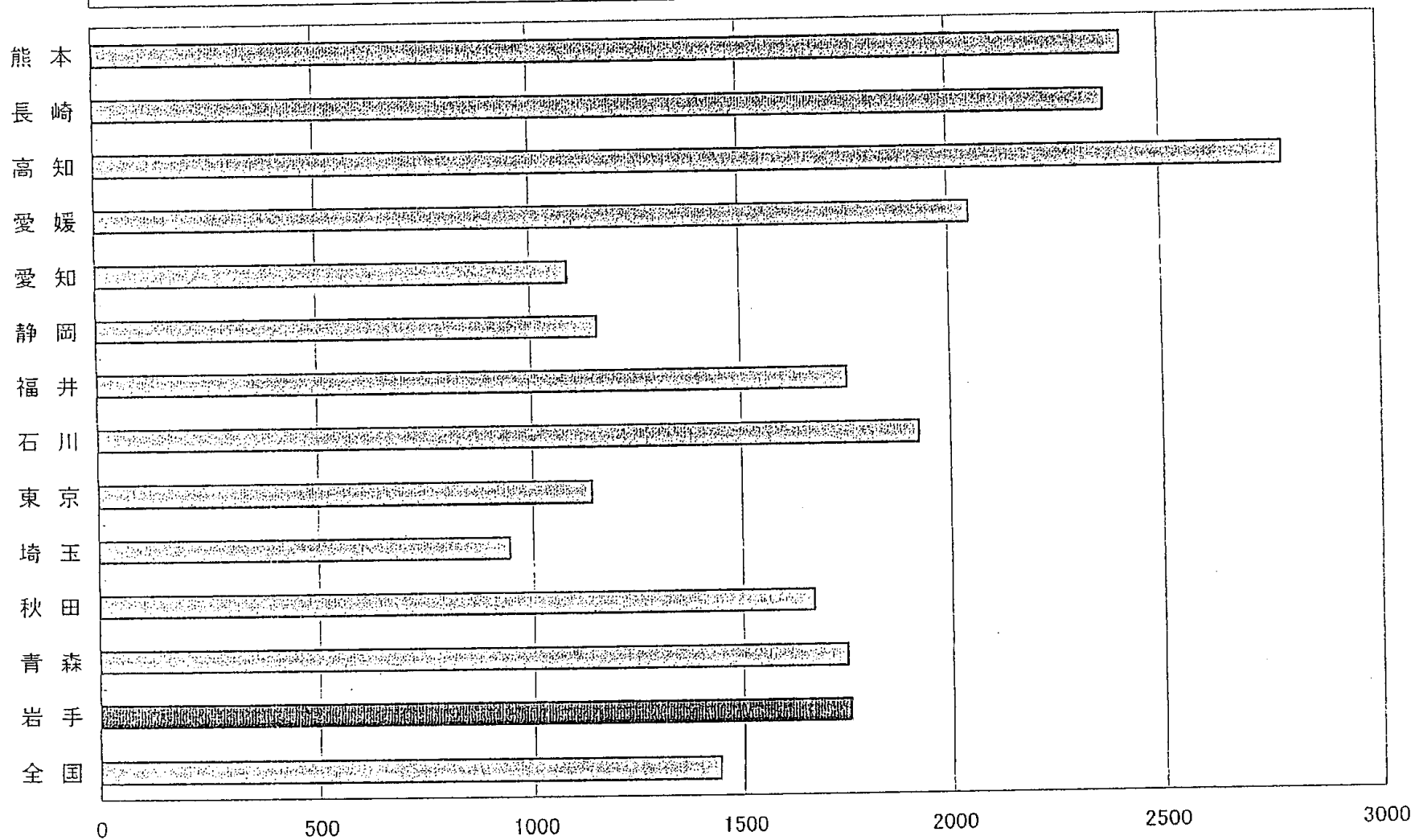
○ 各県医師年齢階級別分布（平成14年医師、歯科医師、薬剤師調査）
 →他県と比較し、70歳以上の医師の割合が高く、39歳以下の割合が低い。



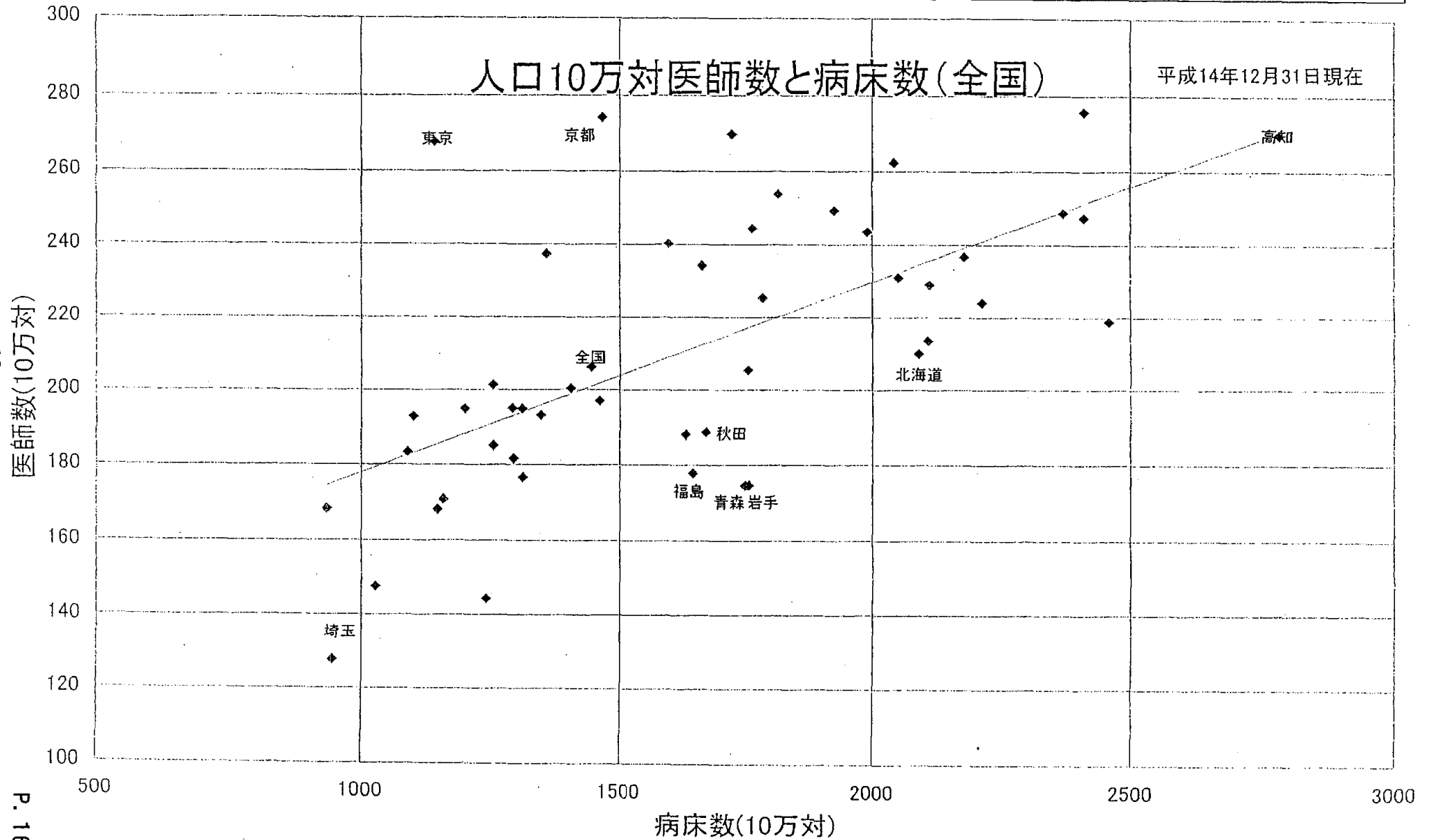
○ 全医師に占める女性医師割合（医師、歯科医師、薬剤師調査）
→ 女性比率は増加しているが、全国平均と比較すると伸び率は低い



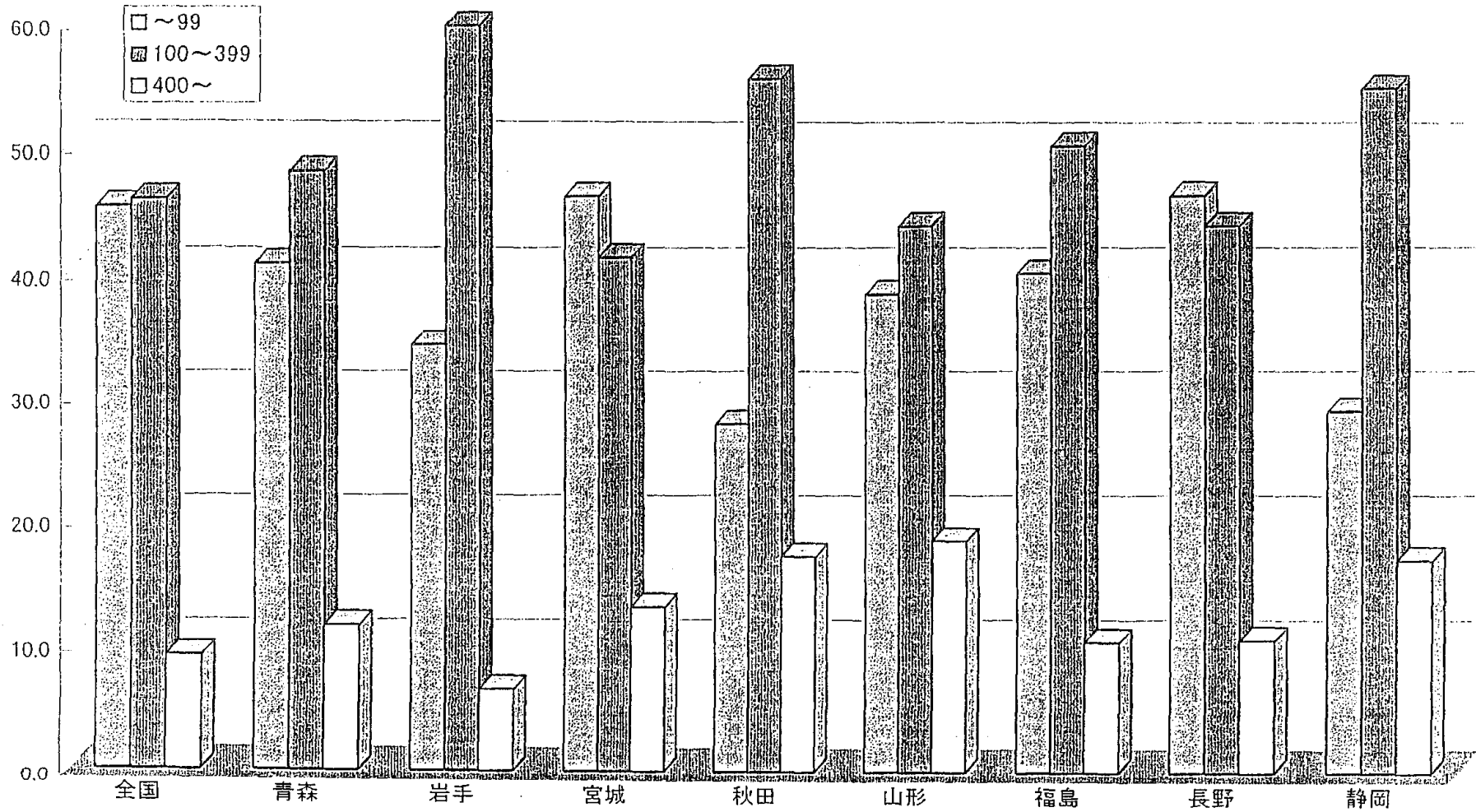
○ 人口10万当たり病床数 → 全国平均よりやや多い。



○ 人口10万対医師数と病床数(全国)
 →病床あたりの医師数をみると全国との差がさらに拡大



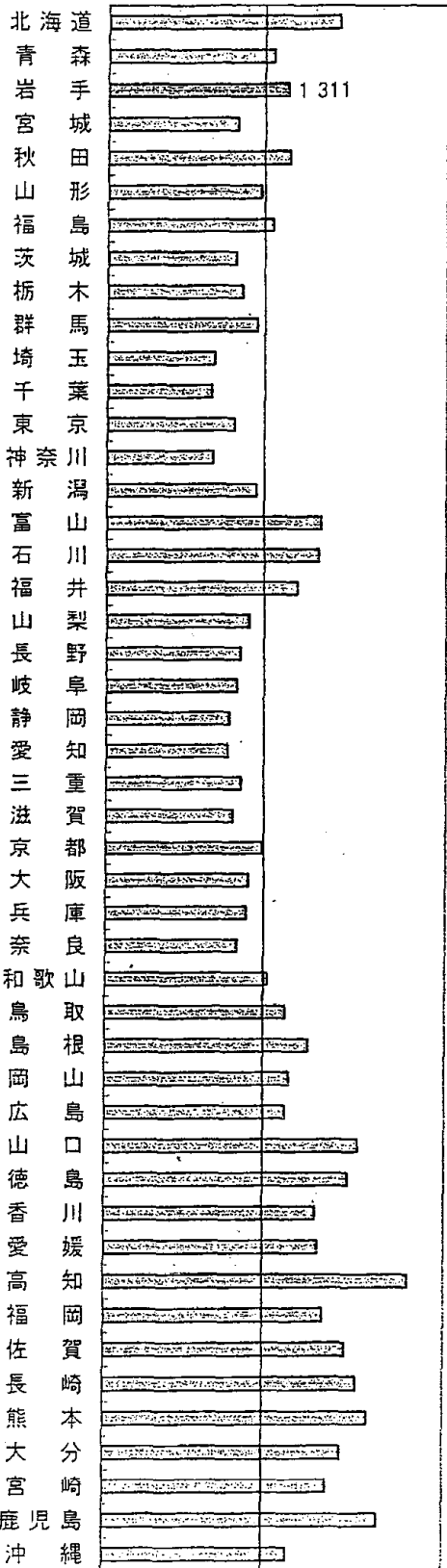
○ 一般病院の病床規模別内訳（東北6県等）
 → 全国と比較し100床から400床規模の中規模病院が多い
 → 診療科あたりの従事する医師が少ないため、医師の負担感が大きいことが予想される



○都道府県別受療率（人口10万対）（平成14年患者調査）
 →受療率は入院でやや高く、外来はほぼ全国水準

入院

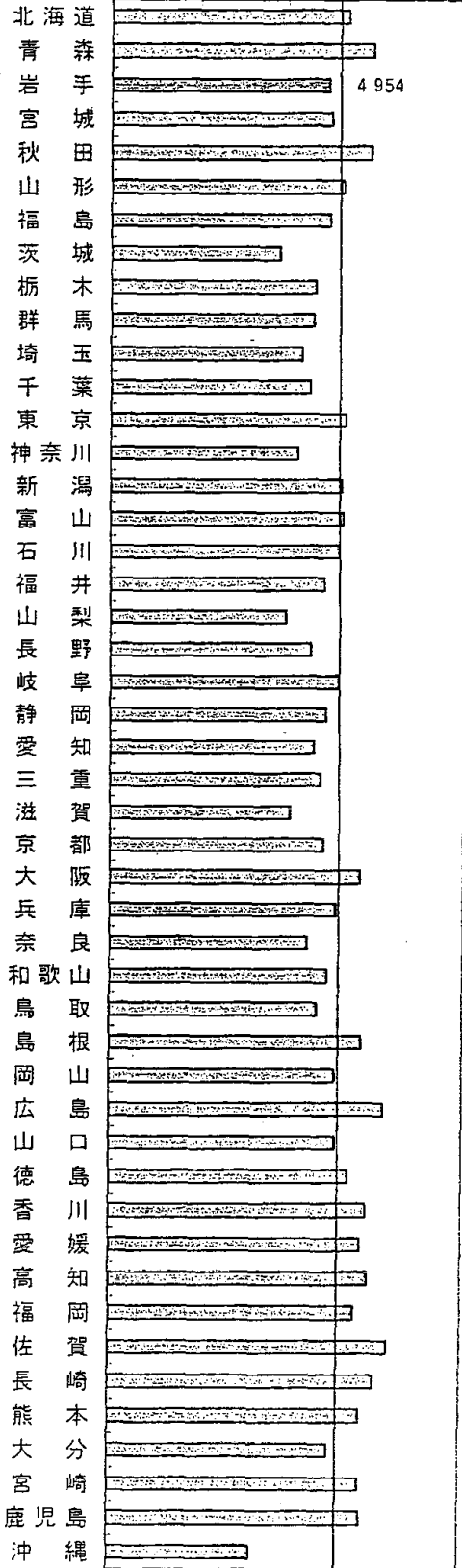
0 500 1000 1500 2000 2500



全国平均1139

外来

0 2000 4000 6000 8000



全国平均5083